

Do CL Column

現状から目的を知る

IACL News letter: Vol. 15, No. 3 (2013/3月) から

—日本未来館 Gary Vierheller (gev@inspir.biz)



「私の目的は何か？ 人生目的は何か？ 自分の人生を何に充て、打ち込みたいことは何か？」これらの質問は、絶えず私に答えを求めます。考え過ぎ？気を散らし過ぎ？誰がわかるか？私ができるのは、質問に直面させられたときだけ、答えが具体化したということです。

レイノルズ先生の本を読みながら「目的」を考えていると、パトリシア・ライアン・マドソン氏とロン・マドソン氏から自分の死亡記事、弔辞と墓碑銘を書くよう求められ、トレーニングコースの受講生仲間とシェアした時のことに直面しました。レイノルズ先生と特にマドソン氏らのおかげで、答えを悟りました。

事故で緊急手術

6年ほど前のある晩、自転車に乗って帰宅中、小さな交差点にかかってスピードを落とし、左右を確認した途端、左側から無燈の自転車が接近してきて衝突しました。前進する自転車をブレーキで止めましたが、前進しようとする体の動きは止められず、ハンドルを越え路面に落下しました。右ひじで道路に着地したせいで、肩とひじの間の骨を粉々に骨折しました。腕からは血がしたたり落ち、肩から1本のロープにぶら下がっている状態でした。

1つのことが素早く次のことに向かわせました。緊急にアメリカに飛びました。骨の破片が肌を突きやぶって、また腕の中に戻っているようで、感染症医師と整形外科医は私が敗血症にかかり、致命的な感染をしたかもしれないと心配しました。そこで、最良の処置は、右腕が使えなくなる可能性をよく考えました。手足の切断か、死の可能性もあったのです。さらに、あいにく、私はアメリカの健康保険を持っていませんでした。手術二日前は肉体的苦痛以上に悩みました。人生のすべての不必要な無意味な考えは消えました。現実が容赦なく十分な注意力を必要とし、CLの教師たちが何を言っていたかを実際に理解し始めました。「私は何をすべきだったか？」は「なすべきことは何か、今できることは何か、後ですることに今準備できることは何か？」に変わりました。

手術の結果は、敗血症にかからず、完璧に動く腕があり、病院で仕事にありつけ、14日間の入院費用を75%減らしてもらえたと報告できるのは、とてもうれしいです。今まで以上にはっきりとした人生方針が持て、そして、これまでの6年間は、公私共に極めて生産的でした。

「危機管理」法で人生を送っていたと言う人もいるでしょう。私はまだ取るに足りないことにかかり過ぎることが多いと認めなくてはなりません（えっ、新聞ないの？）。このような愚かな挫折の一瞬一瞬が、私にだいじなことを思い出させ、目的を再考して、今の人生を送るのに役立ちます。

あなたが私の大失敗から学んで、自分の目的を知り、行動されることを希望します。
(東京都杉並区CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)